

ともしび通信



4月 21日(日) イースター(復活祭)



「わたしは、よみがえりです。いのちです。
わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(聖書)

9:00 - 9:50 **こどもイースター野外集会**
つくし野セントラルパーク(雨天時教会)。エッグハントなど

10:30 - 11:50 **イースター(復活祭)特別礼拝**

※ II 礼拝(16:00-17:00)は通常通りのプログラムとなります

町田バプテスト教会
町田市つくし野 2-31-4 【TEL】 042-796-3822

集会のご案内

教会の活動はホームページでもご紹介しています。
<http://goodnews194.com>

日曜礼拝

多忙な日々の中で、うつむき加減になっている顔と心。天を仰いで生きる元気を取り戻して下さい。

毎日曜
I 礼拝 10:30~11:50
II 礼拝 16:00~17:00



教会学校 (CS)

幼児から大人のクラスで聖書を学んでいます。ジョイジョイサンデーを月1回、開催しています。

毎日曜 9:00~10:00
毎月1回開催
ジョイジョイサンデー
(こども・中高生対象)



水曜礼拝・祈り会

週の半ばの夜、静かに礼拝して、メッセージに耳を傾けます。聖書を順番に学んでいるので、聖書を知りたい方に最適です。

毎水曜
19:30~21:00



壮年会

壮年会では聖書の学びと、賛美集会や教会カフェ、日帰り温泉などサークル的な活動もあります。

毎月第2日曜
13:30~15:00



婦人会

日曜午後の集いは個々に抱えている課題を話しあい、喜びも困難も分かち合う、穏やかなひと時です。

毎月第2日曜
13:30~15:00



青年会

青年たちが、月1回、ともに集まり賛美をし、語り合い、祈り合う集いです。聖書の学びも定期的に行っています。

毎月第2日曜
13:30~15:00



子育てサークルハンナの会

ハンナの会は、子育てに疲れたり、悩んでいるママに元気を与える会です。お子さまと一緒に楽しむ時間もあります。昼食付き。

毎月第4火曜
10:30~13:00



トールペイントサークル

賛美とメッセージのひととき。花を描きながら心を解放するひととき。お茶を飲み、語らうひととき。

毎月第1水・金
10:00~12:30



木曜婦人集会

家事、育児、仕事に忙しい女性たちがありのままの自分でいられる場所。希望と勇気が与えられる時。

毎木曜
10:30~12:00
※3/21-4/4までは
お休みします



- どの集会も参加自由です。お気軽にお越しください。
- 質問や相談ごとは、どんなことでもお尋ねください。
- 送迎の必要な方は、ご遠慮なくご連絡ください。

編集後記

今年は少し早く温かくなってきましたね。春と言えばイースター！活力があふれていく季節にぴったりの聖書からのメッセージを発信させていただきます。集会にもぜひ足をお運びください！



単立 町田バプテスト教会

町田市つくし野 2-31-4 ●<http://goodnews194.com>
042-796-3822 ●[mail:machida@church.email.ne.jp](mailto:machida@church.email.ne.jp)



真実な生き方の基

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネの福音書11章25節)

牧師室より 松本俊雄 牧師

人間として何があっても真実に生きることが、真実と幸いな人生を生み出しますが、現実には本当に難しいことです。旧約聖書に「ヨブ」という人が出てきます。彼は聖書の中で一番試練を受けた人として描かれています。彼は日頃の神の前にも人の前にも正しい人でしたが、突然理由もなくすべての持ち物と全部の子どもの命を取られる試練に会いま



す。それでも彼は、「私は裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られる。」(ヨブ記1章21節)と言って真実に生き、不平を言いませんでした。その結果、その後より以上の幸いを受けました。何故こんなことが出来たのでしょうか。それは「かしこに帰ろう」と、「死後の復活の世界」を信じていたからです。イエス・キリストは十字架にかかり全人類の罪のために死なれましたが、預言通り3日目によみがえり、弟子たちの前に姿を現してくださいました。弟子たちはそれを見て喜び、この死に打ち勝つ復活の信仰に基づいた試練に負けない真実な生き方を全世界の人々に伝える者となり、人類の歴史に多大な影響を与え、今も与え続けています。あなたもこの機会にぜひ教会に集われ、復活の信仰という試練に負けない真実と幸いな人生を自分のものとしてくださいますようお願いしています。

Voice Of Chapel 加藤信行 副牧師

イースターおめでとーございます！ここ日本でもだいぶ浸透してきた感があるイースター(復活祭)ですが、クリスマス(降誕祭と同様に、古くから人々によって守られてきました。クリスマスが「プレゼント」に象徴されるように、イースターは「タマゴ」がシンボルになっていきます。「愛の温かさ」が冬の記念日であるなら、「いのちの力強さ」(ヒヨコ)が卵の殻を破り生まれてくるような力強さが春の記念日のその意味です。イエス・キリストが死を打ち破り勝利されたことは、死が決して人間の全てではないことの証明と言えるのです。それを子どもたちにわかりやすく教えようと、ドイツの教会ではじめられたと言われるのが、いわゆるエッグハント。タマゴさがしです。私も子どもの頃からそのゲーム

見つけ出すのは楽しい！

に親しんできましたが、正直、なぜそのタマゴが隠されて、探さないといけないのかよくわかりませんが、楽しいからよかったです(笑)。そこでこの聖書の御言葉です。「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると…大喜びで帰り…畑を買います。(マタイの福音書13章44節抜粋)なるほど、私は見つけた時の喜びを味わってきたのです。そして今、タマゴに象徴される力強いいのち・宝物を見つけて出し、替えの利かない喜びを持っていきます。是非、この「見つけ出す」喜びを多くの皆さんにも味わっていただきたいなあと思心から願っています。



たまごさがしで使われる「エッグカード」

私的映画批評

『子子を撮りに』

(2013年)

日本作品)

松本勇哉

ある日母親から「離婚して出ていって死ねから会いに行つて、ついでに写真撮って来てほしい」と言われた姉妹が主人公。

嫌々ながらもピクニック気分で行った父親のお見舞いに行つた姉妹に待っていたものとは…観終わった後「これは中野量太監督のお母さんに対するメッセージなのではないか」とひしひしと感じた。調べてみれば、短編映画を撮っていた監督が40手前で最後に勝負しなければと380万円を自分で工面し撮った自主制作映画だそう

が描けるテーマが「家族」だったこと。

そのすべてが詰まったセリフが「恨んでなんかいない、お母さんが絶対にそんなふうになつてなかつた。」ではないかと思つた。年齢を重ねるにつれて、自分の個性を形作っているものをつくづく「育てられ方」だな、ということとはよく思う。自分が育てる方に回つたら尚更痛感した。そんなとき、クリスチャンである自分は、聖書を手にとることが出来る。そこだけが実はすごく安心する。

ちなみに、この作品で評価された監督は3年後、商業用映画デビュー作で日本アカデミー賞優秀作品賞を受賞します。勝負に勝っています!!!



婦人会リレーアナタに出会えて嬉しい

黒澤 頼子



私の祖父は牧師でした。ですから祖母の勧めで幼い時から日曜日は教会へ通っていました。しかし自分から率先してというふうな気持ちではありませんでした。ですから礼拝は退屈でコックリ居眠りしてしまふこともしばしば…。近隣の教会へは何箇所か通いました。が特に心に變化はなく、ただ漫然と、教会へ通つ日々。

23歳の時、従兄弟がこの町田バプテスト教会の礼拝に出席し、「あの教会は生きている!」「みんなで行こう!」と言い、家族、親戚皆で町田バプテスト教会の礼拝に出席させていただきました。いつもと変わらない日曜の礼拝が、

不思議と今までとは全く別のものを感じました。

当時の私は進むべき道に迷いがあり、思い悩んでいました。そんな私の目に飛び込んできたのは壁に貼られた教会の目標聖句「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩篇37篇5節)。「私の心は動かされ涙が溢れてきました。」「私の人生を神様に委ねてみよう!」そう思ったら心がスーッと楽になりました。

この聖書のみことばは祖父が私の名前を命名するにあたり聖書から選び与えてくれた箇所でした。このみことばより「頼子」と名付けられたのです。いつか神様と出会い、ともに歩んで欲しいと願った祖父の思いが23年経ち叶えられた瞬間でした。この日から私と神様との歩みがスタートしました。

私の人生に影響を与えてくれた人

金森



私には、愛する祖母がいます。

祖母は認知症の中にありますが、神様に守られ、平安で満たされています。数年前に、生活を共にしながら、「目がみえるから、聖書が読める。祈ることが出来るから、平安がある。これ以上の幸せはない。」という言葉は何度も耳にしました。祖父は足腰立たなくなっても、毎日聖書を読んで祖母と2人で祈っていました。迷った時や悩んだ時も祈りながら進んでいきました。歳をとるこ

とで不安もあったと思いますが、御言葉によって励まされていきました。そこから導かれる平安があったように感じます。そして、私達兄弟や両親のためにも祈っていましたし、支えられていました。彼の愛した御言葉に、私は幾度となく励まされました。「人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。(ミカ書6章8節)」

神様を第一とし、喜びと感謝に満ち溢れた祖父母の人生のように、私もしっかりと歩んでいきたいと思ひます。皆さんも、一度教会に足をはこんでみませんか?